

令和8年度第1回 生徒による授業評価 教科ごとの分析結果

生徒による授業評価(第1回)を、7月9日～7月10日の間に実施しました。

次の質問について、かなり当てはまる(4点)、ほぼ当てはまる(3点)、あまり当てはまらない(2点)、ほとんど当てはまらない(1点)として点数化し、平均をグラフとして表示しています。(4点満点)

【質問項目】

Q1:毎時間の授業や単元(内容のまとめり)のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある。

Q2:単元(内容のまとめり)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。

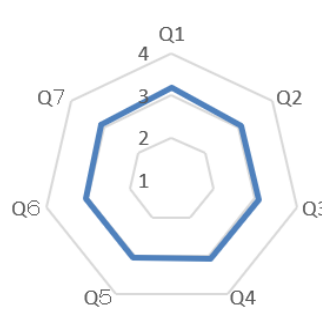
Q3:単元(内容のまとめり)の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある

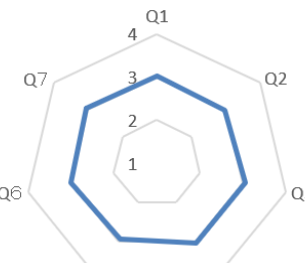
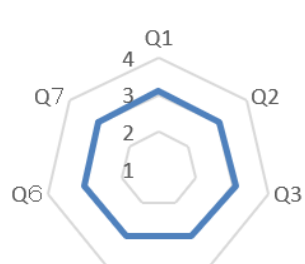
Q4:授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた

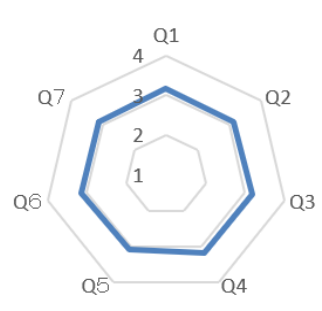
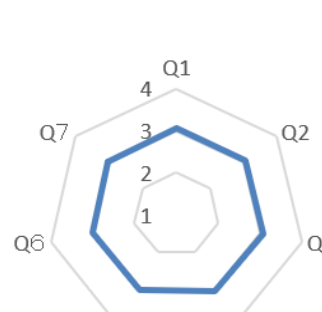
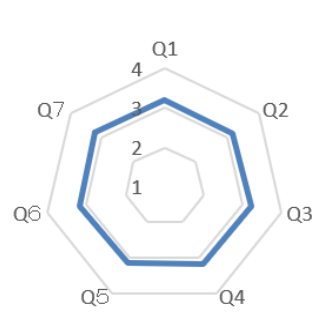
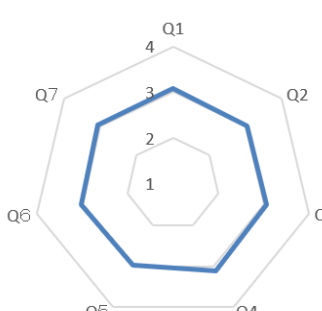
Q5:他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた

Q6:授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた

Q7:授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた

		結果の分析	これからの取組
国語		全体としては、どの項目についても、8割以上の生徒が「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」と回答し、授業に対する不満は感じられない。その一方毎時間の授業や単元(内容のまとめり)のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある」という項目と「単元(内容のまとめり)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある」の2項目があまり当てはまらないの数値がやや高く、今後の授業構成の見直しに役立てたいと感じた。	深く理解し、発展的に学習していくことのできる生徒とそうした学習が困難な生徒の両極がいることを理解した上で、より発展的学習のできる生徒をさらに伸ばし、そこに乗ってくることの困難な生徒への特別な手当の二方向の指導が必要であると考えられる。授業内でもそれを踏まえて課題の与え方や発問の仕方について工夫するとともに、生徒同士で教えあい、発展させる手立てを考えていきたい。
地理歴史		全体として「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」をあわせた肯定的な回答がすべての質問項目で8割を超えており、生徒の授業に対する評価は概ね非常に良好である。特にQ1は「かなり当てはまる」が35%と最も高く、毎時間の目標設定や学習活動の振り返りが効果的に行われていることが伺える。一方で、他者の考えの受容(Q5)や知識を用いた課題解決(Q6)は肯定的な評価が若干低めにとどまっており、主体的な対話や応用力を深める工夫が今後の課題と考えられる。	高評価である「授業の見通しや振り返り」の取り組みを維持しつつ、肯定率がやや低かった「他者との対話」や「知識の活用・課題解決」の強化を図る。施策の例として、単元末等にグループワークやペアワークを意図的に導入し、多様な意見に触れさせる場面を増やし、また、習得した知識を用いて社会課題の解決策を話し合ったり表現したりするパフォーマンス課題を設定し、思考力・判断力・表現力をより深く育成する授業展開を目指す。

公民		全質問で「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」を合わせた肯定率は80%後半と高水準であり、授業全体の満足度は非常に良好である。特にQ1は最高評価が35%と最も高く、各時間・単元の目標設定や振り返りの定着が評価されている。 一方、Q6は肯定率こそ86%だが最高評価が26%と全項目中最小である。基礎知識の理解は進んでいるものの、それを応用・活用して思考を深める段階に課題が残る。	Q1で定着している「振り返り」の質を高めつつ、知識の活用力を養う授業展開を目指す。 施策の例として、課題解決やQ5他者の考えの受容の向上に向け、最新の時事問題や現代社会の対立軸（環境と経済、倫理的問題など）を扱ったグループディスカッションや思考ツールを活用したワークを導入する。また、習得した知識を根拠に自らの意見をまとめ、他者と議論しながら具体的な解決策を模索・発表する機会を増やすことで、公民科に求められる主体的な判断力と思考力を育成する。
数学		どの項目も、「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」の割合が高く、生徒は前向きに取り組んでいると分析することができる。 Q5において「かなり当てはまる」の割合が、他の項目と比較するとやや低い。年間指導計画に基づき教科書の内容をほぼ扱うなか、グループ活動等の時間が取りづらいことが考えられる。	生徒間で教えあう時間を作る。教える側、教えてもらう側にも学ぶ意欲が高まり、自身の自己肯定感も上げることができる。 課題・講習等を通して、発展的な内容にも取り組ませたい。また、数学が苦手な生徒には、わかりやすい授業を展開し、基本問題の演習を増やしていきたい。
理科		いずれの項目も「かなり当てはまる」または「ほぼ当てはまる」が8割を超えており、高い評価であった。しかし、問4から問6の満足度が他に比べわずかに低くなっている。各科目で行っている振り返り活動やポートフォリオ・学習ノートを用いての活動をさらに発展させ、実生活と関連付けたり、単元横断な理解につなげられるよう工夫することが必要と考える。	授業中の発問やポートフォリオの課題、また実験を実生活と関連付けるなどの工夫をし、生徒自身の理解の実感を高めたり、知識を広げ深めることにつなげられるようにしていきたい。

保健体育		すべての項目について、8割以上の生徒が「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」と肯定的な回答している。しかし、「単元(内容のまとまり)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある」、「他者の考えを知ることにより、新たな考え方を考えるなど、自らの考えを広げ深めることができた」という項目について「あまり当てはまらない」という回答がやや多かった。体育では学習ノートを用いて毎時間の自分の振り返りをおこなっているため、他者と比較するという点が少ないのでこの結果に影響していると考えられる。	各種目を実施する際に生徒同士で技術を教え合ったり作戦を考える時間を設けるなど、生徒主体で活動する時間を増やすことで他者の意見を参考にしながら活動したり、自分の考えを広げたり深められるように取り組んでいく。
芸術		Q4から、授業を通して約8割の生徒が「できるようになった」と実感しており、生徒が主体的に取り組んだ結果が表れている。またQ5～Q7の回答は、約8割が「当てはまる」と回答しており、生徒自らが考え、課題解決に向けて学んでいる生徒が多くいることが読み取れる。しかし、芸術科目において実技に苦手意識を持っている生徒は一定数いるため、深い学びに至る仕組みづくりを行う必要がある。	生徒がより主体的に課題に取り組むことができるよう、単元の思考や活動内容がわかるワークシートや授業展開を工夫する。ワークシート等で示すことによって生徒自らの学習を可視化し、授業の現在地を把握し、生徒が問題解決の意識をもって取り組むことが期待される。また、ワークシートの評価を行うことで、生徒への言葉かけや授業改善に活かしたい。
外国語		ほとんどの項目において、80%前後の生徒が4「かなり当てはまる」、3「ほぼ当てはまる」と答えており、生徒の満足度は高い。しかし、昨年度前期に実施したアンケート結果の数値と比して全体的に若干低下している。入学時に英語が苦手だと答える生徒がかなり多い中で、「分かる授業」作りのためにどう改善していくかが課題である。また、Q6の結果が、この7つの質問の中で最も低い結果となっている。この点を今後の授業の中でどのように改善していくかが課題である。	生徒の理解度を上げるためには解説やパターン練習を増やす必要があるが、それを重視し過ぎると、「他者の考えを知る」活動に割く時間が少なくなりがちになる。今後は、2回目に入った指定校事業の今年度の研究課題である、知識を与えるだけでなく、生徒が「主体的」に学習に取り組めるように、授業の内容や活動を工夫し、特に生徒同士の対話を積極的に取り入れ、意見を交換したり、相互に教え合うことなどを通して、自身の理解や考えを深める機会を増やしていきたい。
家庭		どの項目においても、90%以上の生徒が「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」を回答している。しかし、Q5では他の質問と比較すると「あまり当てはまらない」という回答が多かった。授業内では、自分自身の考えをもつ時間を積極的に設けているが、ペアワークを活用できていないのが今回の結果に影響していると考えられる。	2学期は被服実習や調理実習など体験的、実践的な授業が増えるため、より実生活に知識技能を活かせる授業づくりを心掛ける。ペアワークの時間を設けつつ、状況を見てグループワークを取り入れるなど、他者の考えを知るきっかけをつくり、自分の考えをより広げられるような授業を実践する。
情報		どの項目も比較的高い評価を得ることができた。特にQ4では授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができたという項目の評価が最も高く、実感を伴っていることがわかる。	Q5の項目が他の項目と比べて改善が必要と思われる。そのため他者の考えに触れる場面を設け、自らの考えを広げ深める場面設定をしていきたい。日常の中での疑問点を取り上げ、誰でも考えやすい問いを投げかけていきたい。